橋尾 晋平　Shimpei Hashio

教員の教育・研究活動指針	
役職／職名	講師	所属	外国語学部 英米語学科
ふりがな	はしお　しんぺい	生年	
学歴	2014年　同志社大学文化情報学部　卒業 2016年　同志社大学大学院文化情報学研究科博士前期課程　修了 2020年　同志社大学大学院文化情報学研究科博士後期課程　修了
学位	修士（文化情報学）【2016年 同志社大学】 博士（文化情報学）【2020年 同志社大学】
研究分野	英語教育、応用言語学、コミュニケーション学
研究テーマ	・日本人英語学習者のコミュニケーション能力向上を視座にみたリーディングの授業に関する研究 ・日本人英語学習者における日本語の主語省略処理機構に転用に関する研究 ・初年次英語教育における英語ディベートの導入、実施に関する研究

主な研究業績

著書

題名	単・共	発行日	発行所名	備考
「ことばとの対話―理論・記述・言語教育―」	共	2019年2月	英宝社	・筒井氏ことばの会記念論文集刊行による編著 ・「大学生初級英語学習者の主語の指導に関する自発的な授業―主語理論【句】を含む効的授業に着目して―」の執筆を担当した。
Facing Diversity in Child Foreign Language Education	共	2020年4月	Springer	・Joanna Rokita-Jaśkow・Agata Wolanin(ここまで編著 ・"A Note on the Influence of Topic Prominence in Japanese on Japanese Beginner-level EFL Learners' Interlanguage: An Empirical Study"の執筆を担当した（単著扱い山内理学）
English Language Teaching: Current Issues and Future Prospects 1	共	2026年3月	Springer	・田地野彩による編著・"Incorporating an Intensive Reading Activity into the EFL Classroom"の共著を担当した（共著者：Yasutaka Imai, Tomo Nakadoi）

学術論文

題名	単・共	発行・発表日	発行雑誌又は発行学会等の名称	備考
「ライティング能力におけるアカデミック・ディベートの学習効果に関する一考察」	単	2015年4月	『社会文化研究』No.116. pp.207-217	・査読付論文
「アカデミック・ディベート経験者のライティングにおける論理の展開に関する一考察」	単	2016年4月	『社会文化研究』No.121. pp.125-136	・査読付論文
「英語コミュニケーション能を高いて向上するライティングにおける論理構成に関する一考察―アカデミック・ディベートの効果から」	単	2016年10月	『社会文化研究』No.123. pp.147-159	・査読付論文
「高大接続を視座に入れた初年次『英語コミュニケーション』実施の考察―ミシンプル・ライペート】導入の試みを通して」	単	2017年4月	『社会文化研究』No.126. pp.17-28	・査読付論文 ・所属者：Nobuyuki Yamauchi 内理学
"A Note on Contrastive Compositions in Japanese EFL Classes for Intermediate Learners: With a Focus on Reordering Questions"	単	2017年11月	Computational and Corpus-based Phraseology: Recent Advances and Interdisciplinary Approaches (EUROPHRAS 2017), pp.70-77	・査読付論文 ・所属者：Nobuyuki Yamauchi
"The English Debate Instruction to Improve Production Ability among Elementary-Level Japanese EFL Learners: Proposal for Simplified Debate"	単	2018年3月	『立化情報学』第13号第1・2巻、pp.74-77	・査読付論文
"A Note on Intermediate-Level EFL Learners' Interlanguage: Analyzing Their Answers in Reordering and Translation"	共	2018年7月	『社会文化研究』No.132. pp.73-86	・査読付論文 ・所属者：Nobuyuki Yamauchi
"A Proposal for Debate Instruction for Beginner-level Learners of Japanese: Based on Application of 'Simplified Debate' in English-language Education in Japan"	共	2018年12月	『国際社会文化研究』第19号、pp.19-32	所属者：Nobuyuki Yamauchi
「日本人初級英語学習者の主語省略処理機構の転移を検討するための基礎的な研究と今後」	単	2019年4月	『社会文化研究』No.135. pp.120-141	・査読付論文 ・所属者：山内理学
「日本人初級英語学習者における主語省略処理機構の転移に関する一考察」	単	2019年7月	『社会文化研究』No.136. pp.131-144	査読付論文
「日本人英語学習者の主語省略機構からの転移の初期に向けた英語教育に関する一考察」	単	2019年10月	『社会文化研究』No.137. pp.51-63	査読付論文
「日本人初級英語学習者の主語省略処理機構の転移に関する研究と今後」	単	2020年3月	JAAL in JACET Proceedings Volume 3, pp.99-106	国際的な大学英語文化環境学研究科博士論文
「日本語の主語省略処理機構からの転移の観点に向けた思考過程の立法指導に関する一考察」	単	2021年3月	JAAL in JACET Proceedings Volume 3, pp.99-106	査読付論文
「日本人初級英語学習者の主語省略処理機構の転移に関する一考察―日本語ごご最主語文に焦点を当てて―」	単	2022年3月	JAAL in JACET Proceedings Volume 4, pp.86-92	査読付論文
「初年次英語教育における ライシプル・ディベート」の実施時期―学生の入初英語学習者のコミュニケーション能力獲得の観点から―」	単	2023年3月	JAAL in JACET Proceedings Volume 5, pp.67-74	査読付論文
「日本人英語学習者の主語省略処理機構の転移に関する研究と今後」	単	2024年1月	JAAL in JACET Proceedings Vol. 7, pp.51-63	査読付論文
「日本語の主語省略処理機構からの転移に関する一考察―日本人初級・中級英語学習者の文産出データの分析から―」	単	2024年3月	JAAL in JACET Proceedings Volume 6, pp.33-40	査読付論文
「日本人初級英語学習者のクラスにおける『意味指』生活用いたリーディング授業デザインに関する一考察」	単	2024年4月	JAAL in JACET Proceedings No.154, pp.87-98	査読付論文
「仁書主語での前に向かう日本人中級英語学習者の文産出における母語の影響に関する一考察」	単	2025年3月	JAAL in JACET Proceedings Vol. 7, pp.11-12	
「大学生のコミュニケーション能力の育成を目指した問題で形成とセルリーディング授業の実践」	単	2025年7月	JAAL in JACET Proceedings No.160, pp.77-87	査読付論文
「日本人英語学習者の文産出に関する一考察―日本語の二重主語構造からの転移に焦点を当てて―」	単	2026年3月	『名古屋外国語大学論集』第18号, pp.1-28	査読付論文

主な教育上の業績

大学教育の改善に関する活動

活動事項	年月	備考
大阪電通大学英語学部における教育職務免許法施行規則第46条の2の定める「外国語コミュニケーション」に関する科目履修に向けた特別授業プロジェクト	2016年9月～2020年3月	
名古屋外国語大学英米語学科リーディングチーム	2021年4月～現在に至る	
名古屋外国語大学英米語学科2022年度入学生初年次オリエンテーションにおけるリーディングの模擬授業の講師協協	2022年1月	
名古屋外国語大学2022年度入試PC研修会での共同発表（「『自立』した学習者の育成―英米語学科リーディング・ユニットの実践―」）	2023年9月	
名古屋外国語大学英米語学科2023年度入学生初年次オリエンテーションにおけるリーディングの模擬授業の講師協協	2023年1月	
名古屋外国語大学英米語学科2024年度入学生初年次オリエンテーションにおけるリーディングの模擬授業の講師協協	2024年1月	Australian Catholic University（オーストラリア・メルボルン）の初級留学科生を対象にプログラム。
名古屋外国語大学英米語学科2024年度入学生初年次オリエンテーションにおけるリーディングの模擬授業の講師協協	2024年12月	今井康雅、奥田修介、中土井隆、鈴木泰佳他9名との共著
名古屋外国語大学英米語学科2025年度入学生初年次オリエンテーションにおけるリーディングの模擬授業の講師協協	2025年1月	

作成した教育資料

教材名称（対象講義名）	単・共	年月	備考
「Speak Easy: From Basic Conversation to Simplified Debate―自信ウリアベート までスピーキング基本演習―」	共	2019年2月	勝尾尚弘・山内理学・Neil Heffernan・金岡恵観との共著
「英文読んで味くない（Who's Afraid of English Grammar?）」	共	2024年4月	山内理学・北林利治との共著
First Step to College English	共	2024年12月	今井康雅、奥田修介、中土井隆、鈴木泰佳他9名との共著

主な職務上の業績

社会的活動等

活動事項	期間（年月）	活動機関名
自母親学習院大学2015年度後期社会人リプレッシュ教育講座（公開講座）「社会人の英会話」講師担当	2015年9月～2016年3月	自母親学習院大学
自母親学習院大学2016年度後期社会人リプレッシュ教育講座（公開講座）「社会人の英会話」講師担当	2016年9月～2017年2月	自母親学習院大学
名古屋外国語大学オープンプレッシュ2023年度後期公開講座「決断で楽しく学ぶ社会英語」講師担当	2023年4月～2023年7月	名古屋外国語大学
名古屋外国語大学オープンプレッシュ2023年度後期公開講座「決断で楽しく学ぶ英語コミュニケーション」講師担当	2023年10月～2023年12月	名古屋外国語大学
名古屋外国語大学オープンプレッシュ2024年度後期公開講座「決断で楽しく学ぶリスニング・英文解釈」講師担当	2024年4月～2024年7月	名古屋外国語大学
名古屋外国語大学オープンプレッシュ2024年度後期公開講座（集中）「英文法・語法エクステップアップ講座」講師担当	2025年2月	名古屋外国語大学
名古屋外国語大学オープンプレッシュ2025年度後期公開講座「英文読解で楽しく学ぶリスニングのエクステップ講座（TOEIC L&R Part 1・2対策も兼ねて）」講師担当	2025年4月～2025年11月	名古屋外国語大学
名古屋外国語大学オープンプレッシュ2025年度後期公開講座（集中）「英文法・語法エクステップ講座」TOEIC（R）L&R, TOEIC（R）L&R Part 1・2対策も兼ねて）	2026年2月	名古屋外国語大学

所属学会

所属学会名称

所属学会名称
日本比較文学会
外国語教育メディア学会（LET）
全国英語教育学会（JASELE）
大学英語教育学会（JACET）
日本英文学会

所属学会役員歴等

所属学会及び役職名	期間（年月）
日本比較文学会　関西支部編集委員長	2021年4月～現在

主な職歴

期間（年月）	事項
2015年4月～2021年3月	自母親学習院大学　非常勤講師
2017年4月～2021年3月	大阪電通大学　非常勤講師
2020年4月～2021年3月	甲南大学　非常勤講師
2020年4月～2021年3月	近畿大学　非常勤講師
2020年4月～2021年3月	同志社大学　嘱託講師
2021年4月～2026年3月	名古屋外国語大学全国教育職員センター兼英米語学科　外国語担当専任講師

主な担当科目と授業の改善と工夫

主な担当科目名 対象学部・学科

担当科目名	対象学部・学科
Intensive Reading 3, 4	外国語学部英米語学科
Extensive Reading 3, 4	外国語学部英米語学科
Reading and Grammar 1, 2	外国語学部英米語学科
Reading and Discussion 1, 2	外国語学部英米語学科
英語コミュニケーション論	外国語学部英米語学科
英語コミュニケーションゼミナール1, 2	外国語学部英米語学科
英語講読1, 2	外国語学部アジア言語学科

授業の改善と工夫

改善と工夫内容
オリジナルの授業資料の作成し、受講生の資料参照の際する理解度の促進が手段に生かしている。
ペアワーク、グループアクティビティを通して共同作業を行い、アクティブラーニングを実施している。
授業資料の作成や課題の配布・提出、授業に関する諸連絡を行うためにGoogle Classroomを活用している。
受講にあたって学生に学期内の個人目標を設定させ、学期途中に有用して、定期的に進捗を確認しあうことで、英語学習への動機づけを高める。
授業終了後やオフィスアワー、個々みなさんに学生と個別にコミュニケーションをとり、各自の英語学習における問題点の解決に取り組んでいる。また、個別面で相談に学生にとっては、課題の最新情報に記入してもらい、教員がコメント付きで返却を行うようにしている。